2022 年 10 月 28 日（金）
15:00（日本時間）解禁

ASIA COSMOPOLITAN AWARDS
People Connected

【奈良平城京 - ERIA アジアコスモポリタン賞】
第 5 回受賞者を発表

【大賞】
アンヘル・グリア（前ＯＥＣＤ事務総長）

【経済・社会科学賞】
マリ・エルカ・パンゲストゥ（世界銀行専務理事）

【文化賞】
隈 研吾（建築家、東京大学特別教授・名誉教授）

【メモリアル賞】
故　李御寧（韓国初代文化部長官）
故　ポンシアノ・サバド・インタル（元 ERIA シニアエコノミスト）

ASIA COSMOPOLITAN AWARDS（奈良平城京-ERIA アジアコスモポリタン賞）は、「大賞」、「経済・社会科学賞」、「文化賞」、ならびに特別賞となる「メモリアル賞」の 4 賞について第 5 回受賞者を上記の通り発表します。

ASIA COSMOPOLITAN AWARDS は 2 年に一度、東アジア域内における文化面、経済面での地域統合、域内の格差是正、持続可能な成長社会形成を主眼に、2012 年に創設され、質的に充実した東アジア共同体形成に資する優れた活動を行った個人・団体に対し、国籍を問わず、授与される今回第 5 回目となる国際賞です。

また、本賞の授賞式典ならびに受賞を記念した基調講演、受賞者による記念講演を含む記念フォーラム「アジアコスモポリタン賞受賞記念奈良フォーラム」を 2023 年 1 月 19 日（木）に奈良県にて 行います。多数のご参加をお待ちしています。

特設ページ:　https://www.nara-cosmo2023.jp/　　以上

【アジアコスモポリタン賞についてのお問い合わせ】
アジアコスモポリタン賞事務局
東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）
E-mail：yukako.idehara@eria.org
Tel: +62-21-5797-4460
Mob :+62-813 8446 9949（担当：出原）

【フォーラム内容・申し込みについてのお問い合わせ】
アジアコスモポリタン賞受賞記念奈良フォーラム 運営事務局
株式会社コンベンションリンケージ内
E-mail：naraforum2023reg@c-linkage.co.jp
Tel：075-231-6357　／Fax：075-231-6354

【第 5 回 ASIA COSMOPOLITAN AWARDS 受賞者 略歴】

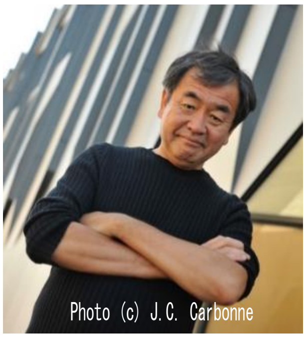
大賞

アンヘル・グリア(Angel Gurria)
1990 年代にメキシコ外務大臣、財務大臣を務めるなど、自国公務での卓越した経歴を経て、2006 年には経済開発協力機構(OECD)の事務総長を務めた。G7、G20、APEC を含むグローバル経済ガバナンスの柱として機能的政策の設計と促進に貢献。加盟国の増強により OECD を拡大し、主要な新興経済国との連携を強化することで、組織をより包括的に成長させた。トランスナショナリズムの促進と、その包括性が称えられ、カナダ国際評議会のグローバリストオブザイヤーの受賞者でもある。

経済・社会科学賞

マリ・エルカ・パンゲストゥ(Mari Elka Pangestu)
世界銀行の開発政策およびパートナーシップ担当マネージングディレクターであり、学界、政府、国際機関で 30 年以上の経験を持ち、国際貿易、投資、持続可能な開発の問題に取り組んでいます。インドネシア大学の国際経済学教授、コロンビア国際・公共問題大学院の上級研究員を務めた。戦略国際問題研究所の理事でもある。2004 から 2011 年までインドネシアの貿易大臣を、2011 年から 2014 年まで観光・創造経済大臣を務めた。中国系インドネシア人として初めて政府の閣僚に就任し、WTO、ASEAN、APEC での地域協力の促進に積極的な役割を果たしている。

文化賞



隈 研吾(Kengo Kuma)
1954 年生。1990 年、隈研吾建築都市設計事務所設立。慶應義塾大学教授、東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名誉教授。30 を超える国々でプロジェクトが進行中。自然と技術と人間の新しい関係を切り開く建築を提案。主な著書に『点・線・面』(岩波書店)、『ひとの住処』(新潮新書)、『負ける建築』(岩波書店)、『自然な建築』、『小さな建築』(岩波新書)、他多数。

メモリアル賞(特別賞)

故李御寧 (Lee O Young)
韓国戦後世代から生まれた著名な批評家であり 1988 年ソウル五輪の開会式や閉会式を成功に導いた立役者。初代文化部長官時代には、「韓国芸術総合学校」など国立大学の設立を始め、文化政策の基盤を築いた。北東アジア三国間フォーラム (NATF) のメンバーとして議論を主導し、似たような文化的背景を持つ東アジア 3 カ国の平和的発展を、継続的に説いた。またアジアコスモポリタン賞第 1～3 回まで選考委員として賞の発展に寄与した。

故ポンシアアノ・サバド・インタル(Ponciano.S.Intal,Jr.)
フィリピン開発研究所 (PIDS) の所長経験者であり、国家経済開発庁(NEDA)の副局長を務めた。デ・ラ・サール大学の正教授およびユニバーシティ・フェローであり、フィリピン政府の内閣/省庁レベルの委員会および大統領のタスクフォースで役職を歴任し、さまざまな立場で国内および国際機関に貢献した。 2009 年から ERIA のシニア エコノミストおよびシニア ポリシー フェローを務め、ASEAN５０周年 の主要プロジェクトの主任コーディネーターを務めた。

第 5 回アジアコスモポリタン賞 大賞
アンヘル・グリア（Angel Gurria）

受賞に値する功績

第 5 回アジアコスモポリタン賞の大賞はアンヘル・グリア氏に授与される。2006 年以来、経済協力開発機構（OECD）の事務総長を務め、G7、G20、APEC を含むグローバル経済ガバナンスの柱として機能的政策の設計と促進に貢献。チリ、コロンビア、コスタリカ、エストニア、イスラエル、ラトビア、スロベニアの加盟により OECD を拡大し、主要な新興経済国との連携を強化することで、組織をより包括的に成長させた。彼の監視の下で、OECD は国際税制を改革し、腐敗防止およびその他の分野におけるガバナンスの枠組みを改善した。彼はまた、女性、ジェンダー、若者を含む人々の幸福を促進する為の新たな分野を発展させ、気候変動に関するパリ協定や持続可能な開発目標の採択など、世界的な議題へ貢献した。

グリア氏は、ニューヨークに本拠を置く人口評議会や、ワシントンに本拠を置くグローバル開発センターなど、様々な国際非営利団体に参加し、水の資金調達に関する国際タスクフォーラムの議長を務め、水と衛生に関する国際事務総長諮問委員会（UNSGAB）及び、世界経済フォーラムの水に関するグローバルアジェンダ評議会のメンバーとして、水の安全問題にも深く関わっている。

また、国際ガバナンス・イノベーションセンターの国際諮問委員会のメンバーでもあり、カナダを拠点とし、韓国とデンマークが共催するグローバルグリーン成長フォーラム（3GF）の諮問委員会、およびゲノム、イノベーション、経済成長に関する国際フォーラムの諮問委員であり、最近では、スペインの王立経済金融科学アカデミーのメンバーにも任命された。

世界をリードする新聞や雑誌の定期的な寄稿者であるグリア氏は、30 か国以上からレジオンドヌール勲章や、フランス政府によるシュヴァリエダンロルドレデュメリテアグリコールの称号を含むいくつかの賞を受賞している。また、フランス上院から、更にオランダのオラニエ・ナウサウの騎士団からもメダルを授与された。最近では、韓国大統領から外交官制の光華メダルを授与され、メキシコの行政の発展に長年貢献した Instituto Nacional de Administración Pública（INAP）によるメダラ・アル・メリト・アドミニストラティボ・インターナショナル「グスタボ・マルティネス・カバナス」が表彰された。

2007 年、グリア氏は、トランスナショナリズム、包括性、グローバルな意識を促進するための地球市民としての努力が称えられ、カナダ国際評議会のグローバリストオブザイヤー賞を初めて受賞。彼の賞には、ベングリオンリーダーシップ賞、メキシコ国際学会によるイシドロファベラ賞、ヌエバエコノミア賞、ベルナルドオイギンスアンエルグラードデグランクルスオーデン、チリ大学のメダラレクタルが含まれる。

アジアおよび世界の平和と反映を視野に収め、継続的な支援と開発を行ってきたグリア氏の功績は、第 5 回アジアコスモポリタン賞の大賞受賞者としてふさわしいものと言える。

第 5 回アジアコスモポリタン賞 経済・社会科学賞
マリ・エルカ・パンゲストゥ（Mari Elka Pangestu）

受賞に値する功績

マリ・パンゲストゥ氏は、2020 年 3 月 1 日から世界銀行の開発政策およびパートナーシップ担当専務理事を務めている。国際貿易、投資、および多国間、地域、国家環境における持続可能な開発を行っている。

最近では、コロンビア国際公共政策大学院の上級研究員、インドネシア大学の国際経済学教授、オーストラリアのリー クアン ユー公共政策大学院およびクロフォード公共政策大学院の非常勤教授を務めた。国立大学、インドネシア経済研究局（IBER）の理事、ジャカルタの戦略国際問題研究所（CSIS）の理事等も歴任している。

2004 年から 2011 年までインドネシアの貿易大臣、2011 年から 2014 年まで観光・創造経済大臣を務めた。貿易大臣として、インドネシアの国際貿易交渉と協力を主導。WTO でも積極的な役割を果たした。さまざまな貿易大臣会合を開始し、 2011 年の ASEAN と APEC では、地域協力でリーダーシップを発揮した。

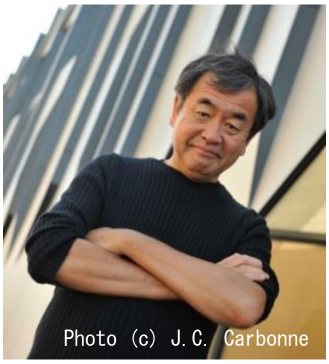
インドネシアおよび海外で、さまざまな世界経済および開発問題について主導的な発言をしており、国連事務総長のミレニアム開発目標（MDGs）のレビュー（2003-2005）ではジェフリー サックス氏と協力。ワシントン D.C. の国際食糧政策研究所（IFPRI）の理事会の議長を務め、アブダビの国際再生可能エネルギー機関（IRENA）のエネルギー変換の地政学に関するグローバル委員会の顧問を務めた。国連持続可能な開発ソリューション ネットワーク（SDSN）の指導者評議会を始め、持続可能な海洋経済のためのハイレベルパネル専門家グループの共同議長；WHO 健康イニシアチブ、平等アクセスイニシアチブのパネルメンバー、インドネシア低炭素開発イニシアチブのコミッショナー、国際商工会議所（ICC）の理事会など様々な国際機関の理事会および特別委員会のメンバーにも名を連ねる。

更に、香港大学のアジア グローバル特別研究員、オーストラリア・インドネシア評議会の理事、オーストラリア国立大学 Bulletin of Indonesia Economic Studies 編集委員会メンバー、世界経済フォーラム、貿易投資に関するグローバル未来評議会のメンバーであり、 United in Diversity (UID) Foundation（ジャカルタ）会長、 Astra International 取締役会委員およびインドネシアの Bank BTPN 会長、ワシントン D.C. の McLarty Associates の国際諮問委員会のメンバーでもあった。

オーストラリア国立大学で学士号と修士号を取得し、カリフォルニア大学デービス校で博士号を取得。 2014 年 12 月に重慶で開催された世界中国企業フォーラムで「リーダーシップにおける生涯功績」賞を受賞し、アイゼンハワー フェローシップから 2018 年優秀フェロー賞を受賞した。

彼女の輝かしいキャリアを通じた持続可能な世界経済の発展への貢献が認められ、アジア コスモポリタン 経済社会科学賞はマリ・パンゲストゥ氏に授与する。

第５回アジアコスモポリタン賞 文化賞
隈 研吾（Kengo Kuma）



受賞に値する功績

1954 年生。東京大学大学院建築学専攻修了。1990 年隈研吾建築都市設計事務所設立。東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名誉教授。

1964 年東京オリンピック時に見た丹下健三の代々木屋内競技場に衝撃を受け、幼少期より建築家を目指す。大学では、原広司、内田祥哉に師事し、大学院時代に、アフリカのサハラ砂漠を横断し、集落の調査を行い、集落の美と力にめざめる。

コロンビア大学客員研究員を経て、1990 年、隈研吾建築都市設計事務所を設立。これまで30か国を超す国々で建築を設計し、（日本建築学会賞、フィンランドより国際木の建築賞、イタリアより国際石の建築賞、他）、国内外で様々な賞を受けている。また、2020東京五輪の会場となった、国立競技場の設計に携わった事でもよく知られている。

その土地の環境、文化に溶け込む建築を目指し、ヒューマンスケールのやさしく、やわらかなデザインを提案している。コンクリートや鉄に代わる新しい素材の探求を通じて、工業化社会の後の建築のあり方を追求している。

彼の研究室であるＫｕｍａ　Ｌａｂ内では、建築、都市主義、デザインに関する様々なプロジェクトを運営し、隈研吾建築都市設計事務所は、世界中で大規模な建築プロジェクトを設計している。

物質を重視し、自然と光を操作することを得意とし、自然と技術と人間の新しい関係を切り開く建築を提案する彼のビジョンは、建築の本質的な特徴と、日本の伝統に関連した素材の感情的な内容を表現している。

主な著書に『点・線・面』（岩波書店）、『ひとの住処』（新潮新書）、『負ける建築』（岩波書店）、『自然な建築』、『小さな建築』（岩波新書）、他多数。

今後の世界規模での更なる活躍と、東アジアにおける継続的な文化育成・発展に大いに貢献されることを期待し、アジアコスモポリタン文化賞を授与する。

第５回アジアコスモポリタン賞 メモリアル賞
故 李御寧 （Lee O Young）

受賞に値する功績

今回、特別賞であるメモリアル賞は、故李御寧氏に授与される。韓国「戦後世代」から生まれた最も著名な批評家の１人であり、初代文化部長官も務めた。

彼が最初に発表した文芸批評「Lee Sang non」(On Lee Sang, 1955)に始まり、1956年に韓国日報に掲載されたエッセイ「Usang eui Pagoe」(Destruction of Idol)で文学界を騒がせ、その名を世に轟かせた。戦争の経験が文芸の想像力も壊滅させたかのように思われたその時代に、李御寧氏は修辞的な洗練さと活気のある記事で、韓国文学の拡大と豊かさを主張した。

日本を知るための100冊などに取り上げられる『「縮み」志向の日本人』（学生社、1982年）をはじめ、『恨の文化論』（学生社）、『ふろしき文化のポスト・モダン』（中央公論社）、『蛙はなぜ古池に飛びこんだか』（学生社）と数多くの日本人文化論の著作で知られ、梨花女子大学教授も務めた。

彼は、長く語り継がれる名演出として知られる1988年ソウルオリンピックの開会式や閉会式を企画、成功に導き、また初代文化部長官を務めた。文化部長官時代には、芸術総合学校「韓国芸術総合学校」など国立大学の設立をはじめ、文化政策の基盤を築いた。

さらに、中国、日本、韓国の専門家を含む、北東アジア三国間フォーラム（NATF）のメンバーとして議論を主導し、似たような文化的背景を持つ東アジア３カ国の平和的発展を、継続的に説いた。加えて、アジアコスモポリタン賞の第１回から第３回まで(2012～2017)選考委員を務め、「知の巨人」として知られる彼の知見をもってアジアコスモポリタン賞の発展に寄与した。

深い裁量と豊富な学問的知識を持っており、韓国だけでなく世界の他の国々にも広く影響を与えた文化人であった。人生をかけて東アジア諸国間の文化的関係を発展させた、彼の卓越した功績を称え、アジアコスモポリタン賞選考委員会は、特別賞であるメモリアル賞を李御寧氏に授与する。

第 5 回アジアコスモポリタン賞 メモリアル賞
故ポンシアノ・サバド・インタル（Ponciano S. Intal, Jr）

受賞に値する功績

インタル氏は、1983 年に米国コネチカット州のイェール大学で経済学の博士号を取得。専門分野は、貿易、投資、環境、および農業の分野で、フィリピンの農業価格政策と農業研究開発、農業産業の再構築、為替レート政策、貧困と包摂的成長、国際貿易政策、および WTO 関連する開発協力など、フィリピンと国際経済に関する幅広い問題について幅広く執筆している。

2009 年に ERIA に参加し、シニア エコノミストおよびシニア ポリシー フェローを務めた。ASEAN Rising、2015 年以降の ASEAN 社会文化共同体のフレーミング、規制の不必要な規制負担の削減、および ERIA とフィリピン政府による 5 巻の ASEAN@ 50 出版プロジェクトを含む、ASEAN に関する主要な ERIA プロジェクトの主任コーディネーター。ASEAN ビジョン 2040、ASEAN の国際規制協力、ASEAN シームレス貿易円滑化指標と貿易取引コスト、および ASEAN 規制管理システムのベースライン研究に関するプロジェクトを主導した。

ERIA に参加する前、インタル氏は経済学部の正教授であり、フィリピンのマニラにある De La Salle University (DLSU) の University Fellow だった。彼は DLSU-Angelo King Institute for Economic and Business Studies (DLSU-AKI) を設立し、10 年近くそのエグゼクティブ ディレクターを務めた。

インタル博士は、1991 年から 1998 年までフィリピン開発研究所 (PIDS) の所長を務め、1988 年から 1991 年の間フィリピン政府の内閣/省レベルの委員会および大統領のタスクフォースで役職を歴任し、さまざまな運営委員会および評議員会のメンバーであり、さまざまな立場で国内および国際機関に奉仕した。

DLSU-AKI で主要な研究および擁護プロジェクトを調整。彼の功績として、農業近代化に関する議会委員会、NEDA、農務省、貿易産業省、UNDP などによって使用された研究報告がある。

インタル博士は優れた政策研究者であり、分析において非常に厳格で、非常に洞察力に富んでいた。調査研究で非常に有用で実行可能な政策提言を提供し、中期的に国にとって重要になる政策問題を特定する優れた能力を持っていた。彼の知的専門知識と人柄は研究者と政策立案者を惹きつけ、研究者と政策立案者の大規模なネットワークを確立することを可能にし、さまざまな利害関係者間の交流の多くの機会を提供した。

アジア コスモポリタン アワードは、東アジア諸国間の関係を発展させた功績により、特別賞であるメモリアル賞ポンシアノ・サバド・インタル氏に授与する。

過去の受賞者

第１回（2012年）

❖大賞

スパチャイ・パニチャパック（Supachai Panitchpakdi）
国連貿易開発会議(UNCTAD) 事務局長(当時)

❖経済・社会科学賞

ベネディクト・アンダーソン（Benedict Anderson）故人
政治学者、コーネル大学政治学部名誉教授

❖文化賞

井上 雄彦（Takehiko Inoue）
漫画家

❖メモリアル賞(特別賞)

故ハディ・スサストロ(Hadi Soesastro)
インドネシア戦略国際研究所元所長

過去の受賞者

第 2 回（2014 年）

❖大賞

マンモハン・シン（Manmohan Singh）
前インド首相

❖経済・社会科学賞

ピーター・デーヴィッド・ドライスデール (Peter David Drysdale)
経済学者、
オーストラリア国立大名誉教授

ワン・グンウ（Wang Gungwu）
歴史学者、
シンガポール国立大学 上級教授

❖文化賞

リティー パン（Rithy Panh）
映画監督

宝塚歌劇団（Takarazuka Revue）

過去の受賞者

第 3 回（2017 年）

❖大賞

テイン・セイン（Thein Sein）
前ミャンマー連邦共和国大統領

❖経済・社会科学賞

藤田 昌久(Masahisa Fujita)
甲南大学特別客員教授、
京都大学経済研究所特任教授

❖文化賞

ヘルマン・ファン・ロンパイ （Herman Van Rompuy）
日 EU 俳句交流大使、
欧州理事会名誉議長

過去の受賞者

第 4 回（2019 年）

❖大賞

福田 康夫（Yasuo Fukuda）
元日本国内閣総理大臣

❖経済・社会科学賞

リチャード・ボールドウィン（Richard E. Baldwin）
ジュネーブ高等国際問題開発研究所
国際経済学教授

❖文化賞

チームラボ (Team Lab**)**
アート集団

ノグチ ミエコ (Mieko Noguchi)
ガラスアーティスト

❖メモリアル賞(特別賞)

スリン・ピッスワン (Surin Pitsuwan)
元 ASEAN 事務総長